

南朝正平十三年 北朝廷文三年四月三十日

八二二

リ、寅刻○参考太平記ニ、毛利家、北條家、金春秋五十四歳ニテ、遂ニ逝去シ給

ヒケリ、サラヌ別ノ悲シサハサル事ナカラ、國家ノ柱石摧ヌレハ、天下今モ

如何トテ、歎キ悲ム事限ナシ、○西源院本、去ラヌ別ノ悲シサヲ、惜奉慕ノミ

歎ル前田家本之ニ同シ、作サテ有ヘキニ非ストテ、中一日有テ、衣笠山麓等持

院ニ葬シ奉ル、○前田家本、佛鎖龕ハ天龍寺龍山和尚、起龕ハ南禪寺平田和

尚、奠茶ハ建仁寺無徳和尚、○参考太平記ニ、無徳、毛利、奠湯ハ東福寺鑑翁和

尚、下火ハ等持院東陵和尚、○前田家本、如右ノ尊宿達、其役ヲ勤仕有テ、善ヲ

ニテソオハシケル、哀ナルカナ、武將ニ備ハリテ二十五年、向フ處ハ必從フ

トイヘトモ、無常ノ敵ノ來ルヲハ、防クニ其兵ナシ、悲カナ天下ヲ治テ六十

餘州、命ニ從フ者多シトイヘトモ、有爲ノ境ヲ辭スルニハ、伴フテ行人モナ

シ、身ハ忽ニ化シテ、暮天數片ノ烟ト立上リ、骨ハ空シク留リテ、卵塔一掬○西

源院本、拈ノ塵ト成ニケリ、別ノ涙カキ暮テ、是サヘトマラヌ月日カナ、

〔塵塚物語〕四 將軍家御他界時有兼兆事

御當代の曩祖大御所尊氏公御逝去の時、猿澤の池水へんじて紅にみゆ、其

外天變地兆一にあらず、○略上